予習に関する学習有効性評価尺度の作成

○松島るみ¹・尾崎仁美¹

(¹京都ノートルダム女子大学現代人間学部)

キーワード：講義型授業，大学生，予習

Developing a Scale of Perceived Utility of Preparing for Classes

Rumi MATSUSHIMA¹ and Hitomi OZAKI¹

(Kyoto Notre Dame University, Faculty of Contemporary Human Sciences)

Key Words: lecture-styled classes, university students, preparing for classes

問題と目的

講義の内容を深く理解し，知識を習得するためには，関連する内容を事前に学習しておくことが有効であると考えられており（篠ヶ谷, 2013），講義型授業における事前学習には一定の効果がみられると推測される。学習者自身が事前学習（予習）にどのような効果があると評価しているのかについて，松島・尾崎（2015）は授業の予習により授業内容の理解や学習・授業に対する意欲の上昇につながると感じた学生が多く，予習するポイントを提示しておくことが，授業理解のみならず，授業に対する構えや学習内容の記憶定着に一定の効果があつたことを示唆している。

本研究では，大学の講義型授業における「予習」に焦点を当て，継続的な予習活動を取り入れることは学習者にとってどの様に有効なのか，その有効性を評価する指標を開発し，信頼性・妥当性を検討することを目的とする。

方 法

（1）調査対象者・人数：京都府内の2大学で教育心理学系および社会調査関係の授業を受講していた88名の大学生。これらの授業において，受講生は毎回，1週間前に課された予習課題を行った上で授業に参加するよう求められていた。予習課題は，次回の授業のポイントとなる事項を調べたり，自身の意見をまとめてくるという内容である。

（2）調査項目

- ①予習に関する有効性評価尺度：松島・尾崎（2015），松島・尾崎（2017）を参考に，「記憶の定着」「知識の拡大」「学習時間増加・確保」など，予習に関する有効性について8つの側面より3項目ずつ，計24項目を使用した。
- ②学習意欲：桜井（2009）の「大学生用の自ら学ぶ意欲測定尺度」から，欲求・動機レベルより「知的好奇心」の6項目，学習行動レベルより「深い思考」の6項目，認知・感情レベルより「おもしろさと楽しさ」の4項目を使用した。
- ③学習方略：佐藤（2006）の認知的能動性尺度10項目のうち，教師からの情報提示に対するより能動的で認知的側面な対処を示す7項目を使用した。
- ④授業興味，理解度，授業態度，予習課題をどの程度熱心に取り組んだか：受講した対象科目について，授業への興味，授業の理解度，授業態度，予習に関する取り組みの程度を尋ねた。

結果と考察

（1）予習に関する学習有効性評価尺度の因子分析

予習に関する学習有効性評価尺度24項目について，因子分析（重み付のない最小二乗法・promax回転）を実施したところ，5因子（授業内容理解促進，学習時間の確保，学習内容の確認，授業に対する構え，考えをまとめる力の獲得）（Table1）が抽出された。

Table1 予習に関する学習有効性評価尺度因子分析結果

	factor				
	I	II	III	IV	V
1. 自分で予習することで，授業の内容が頭に入りやすくなった	.938	-.034	-.115	.161	-.180
2. 自分が予習で調べた内容と授業内容を比較することで，復習することができた	.797	-.085	.097	.133	-.037
17. 授業内容の理解が早まった	.796	-.066	.172	-.020	-.018
20. 予習によって授業内容が記憶に残りやすかった	.751	.197	.031	-.136	.009
21. 予習することで深く学ぶことができた	.636	.329	-.050	-.136	.188
9. 授業内容を理解しやすくなった	.599	-.071	.130	.150	.066
14. 復習する習慣がついた	-.524	.810	-.087	.111	.159
6. 学習時間が増えた	-.026	.800	.264	-.081	-.294
22. 学習時間を確保することができた	.050	.770	.171	-.028	-.086
23. 自ら勉強しようという気持ちになった	.161	.763	-.141	-.240	.212
15. 次の授業を受けたという気持ちが高まった	.085	.642	-.028	.319	-.125
5. 授業内容以外のことも学ぶことができた	-.027	.608	-.098	.271	.082
13. 調べることで新しい知識を得ることができた	-.024	.066	.749	.102	.115
18. 予習した内容を授業でもう一度確認することができた	.165	.056	.742	-.024	.024
10. 予習をしてきた内容について，授業の中で正誤の確認ができた	.269	-.066	.626	-.026	.117
3. 次の授業に対する不安が少なくなった	.080	-.016	.039	.843	-.046
4. 授業での学習内容が思い出しやすくなった	.342	.010	-.009	.492	.146
24. 文章をまとめる力がついた	-.037	-.053	.120	-.058	.918
16. 自分の考えを述べる力が身についた	-.072	.110	.076	.304	.552
factor correlation II	.644				
III	.714	.502			
IV	.559	.485	.466		
V	.603	.567	.502	.575	

（2）尺度の信頼性（内的整合性）と妥当性の確認

各5因子についてクロンバックの α 係数を算出したところ，いずれも.80以上となり（I.93，II.89，III.91，IV.82，V.83），内的整合性が確認された。また，予習に関する有効性評価尺度の5尺度と学習意欲，学習方略，授業興味理解度，予習に関する評価の相関係数を算出したところ，学習意欲との間には全体として有意な正の相関がみられ，授業中の学習方略や授業評価，予習の取り組み程度の間にも高い正の相関がみられた。

このことから，本研究で作成された，予習に関する有効性評価尺度について信頼性（内的整合性），妥当性が概ね確認されたといえる。今後このような予習の有効性評価の個人差によって，授業内容の理解や学びの成果，自立的学習活動に差異がみられるかどうか，引き続き検討が必要である。また，予習により，受講生が評価するような効果が実際に確認されるかどうかの検討も併せて行っていく必要がある。

引用文献

- 松島るみ・尾崎仁美 2015 講義型授業における予習活動に対する意識 日本心理学会第79回大会発表論文集，1185。
- 松島るみ・尾崎仁美 2017 授業前の「問い」提示と予習が学習方略および授業への興味・理解度に及ぼす影響 日本心理学会第81回大会発表論文集
- 桜井茂男 2009 自ら学ぶ意欲の心理学 有斐閣
- 佐藤康司 2006 関連づけの成立と認知的能動性が学習に及ぼす影響 教育学習心理学研究，2，49-58。
- 篠ヶ谷圭太 2013 予習時の質問生成への介入および解答作成が授業理解に与える影響とそのプロセスの検討 教育心理学研究，61，351-361。